9. 取組内容の進捗状況（令和3〔2021〕年度）

【慶應義塾大学】

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

○ オンラインによる短期留学プログラム（受入・派遣・交換）

8月12日～13日に米国・ウィリアム・アンド・メアリー大学（The College of William and Mary）の夏季講座に、のべ59名の本学学生が参加した。講義やグループワーク、Q&Aセッション等を通し、W＆Mの学生と意見を交わし、日米両文化などについて学びを深めた。

9月20日～24日に、復旦大学との学生交流プログラム「日本と中国の文化交流講座」を開催。日中両国間の文化交流に関する全10回の講義を英語と中国語により行った。本学と復旦大学の学生のべ435名が参加し、最終日には、オンライン上で学生同士が直接対話する交流会も実施した。

2022年2月17日～3月1日、慶應義塾大学短期日本学講座（KJSP：Keio Short-Term Japanese Studies Program）を開催。本学とオーストラリア、中国、香港、ニュージーランド、韓国、スイス、シンガポール、英国の協定大学の学生計27名が参加した。

2022年3月15日～16日、豪州・シドニー大学（The University of Sydney）春季講座で、本学学生36名がワークショップに参加した。

APRU: Association of Pacific Rim Universities（環太平洋大学協会）の加盟大学間で、APRU Virtual Student Exchange（VSE）Programに参加した。APRU加盟の海外の大学からの受入数は19名、本学からの派遣数は13名となった。2021年度からは、 APRU加盟大学の学生がこのプログラムで慶應の科目を履修する場合、単位を取得できるようになった。

https://vse.apru.org/

ガバナンス改革関連

○U7+ Alliance：国際的連携組織の活用

10月25日に開催された大学連合「U7+ Alliance（2019年7月のG7ビアリッツサミットをきっかけにG7の主要大学を中心に創設）」学長会議において、Statement on Climate Change and Sustainability（気候変動と持続可能性に関する声明）が全会一致で採択され、本学を含む12カ国29大学が署名した。2022年3月には、U7+ Alliance加盟大学として、Statement on War in Ukraine (ウクライナ戦争に関する声明)に署名した。

○戦略的パートナシップネットワーク構築プロジェクト：グッドプラクティスの共有

2021年度に新たに始まった「大学の国際化促進フォーラム」事業の「戦略的パートナーシップ」のネットワーク構築プロジェクト（幹事：東京大学）に参画した。本プロジェクトでは、加盟10大学それぞれの戦略的パートナーシップにおける課題や好事例を共有し、横展開することにより、大学の国際通用性と競争力を図ることを目的としている。

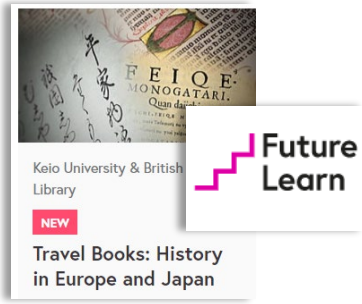
教育改革関連

○ ナンバリング制度・シラバスの英語化

2022年度からナンバリング制度「K-Number」を導入し、シラバスの英語化もこの制度と整合をとることにより、学生の利便性、大学の管理運用について、一層の向上を図る。

○ FutureLearn　オンライン教育プラットフォーム

2021年度は、新規2コースを含む10コースを開講した。大学院メディアデザイン研究科では、FutureLearnとディスカッションを組み合わせた授業を実施し、学生から好評を得た。



○ GICセンター（Center for Global Interdisciplinary Courses）

GICは、科学、環境、音楽、武士道、貧困、ビジネスなど様々な分野の授業科目を英語またはその他の外国語で提供するプログラムで、学生は所属学部によらず履修できる。2021年度のGIC科目の履修者数は1,886名であった（前年比＋335名）。また、Faculty Developmentの一環として、GIC教員による全11回のウェビナーを実施し、英語による教授力の強化を図った。
卒業時までに一定の条件を満たした科目の取得合計が40単位以上となった学生には、修了証が授与される。

■ 大学独自の成果指標と達成目標

○ QS分野別・世界大学ランキング（QS World University Rankings by Subject 2022）３分野で世界100位以内

161の国と地域にある1,543機関が参加し、人文学、工学・技術、生命科学、自然科学、社会科学の5つの領域の51の研究分野におけるランキング。Classics & Ancient History（51-80位）、Politics & International Studies（51-100位）、Law（98位）の３分野で、世界100位以内にランクインした。

○ QS世界大学世界大学就職力ランキング（QS Graduate Employability Rankings 2022）世界56位を獲得

世界56位を獲得。「雇用者（企業等）による評価（Employer Reputation）」、「卒業生の活躍（Alumni Outcomes）」、「雇用者と学生との結びつき（Employer-Student Connection）」、「雇用者との連携（Partnerships with Employers）」、「就職率（Graduate Employment Rate）」の5項目で評価するランキング。

○ クロス・アポイントメントによる海外副指導教授制度

新型コロナウイルスの感染拡大による渡航制限のため、多くがオンラインによる遠隔指導となったが、 2021年度は51名を任用し、前年度と同レベルとなった（2020年度52名）。2014年の制度開始からの任用者累計は511名となった。

○ ダブルディグリー（DD）プログラム

2021年度は、大学院におけるDDプログラムの拡充を図り、合計プログラム数は31で、2020年度の28から3増加した。

■ 国際的評価の向上につながる取組

○ 国際会議・イベントの開催

KGRI（慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート）では、2021年度は「長寿」「安全」「創造」の各クラスターで、多数のオンラインイベントを主催・共催し、国内外に発信した。最も多いものでは約8.3万人が視聴した。

11月20日、日本留学フェア"Experience Japan Exhibition 2021 Online" を主催した。SGU採択大学などを中心に全国の33の大学・団体が出展し、各大学の日本留学プログラム、奨学金情報や日本留学体験談などのプログラムを提供した。出展者数・参加者数ともに過去最大となり、英国だけでなくアジアやヨーロッパを中心にのべ2,080名の参加があり、活発に質疑応答などが行われた。

https://www.keio.ac.jp/ja/news/2021/12/6/27-91235/

○ 国際共著論文刊行数の増加

2021年（暦年）の国際共著論文数が、前年度と比べて実数で約14%（982⇒1,127）増加した。また、3名の研究者が、2021年のクラリベイト・アナリティクス社のHighly Cited Researcher（21の分野における論文被引用数が上位1%に入る論文を複数発表している研究者）となった。

○ 国際広報：英語によるWebサイト・SNS・e-ニュースレター

- 月刊e-ニュースレター「The Penmark」（2021.4登録者数3,037名⇒2022.4現在4,681名）
- Facebook（2021.4フォロワー数約2.5万人⇒2022.4現在約2.6万人）
- Instagram（2021.4フォロワー数約1.6万人⇒2022.4現在約1.7万人）

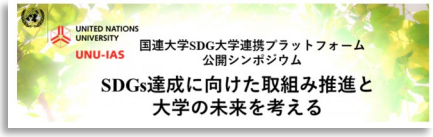
■ 自由記述欄

○ SDGs達成への取り組み

国連の持続可能な開発目標（SDGS）は、本学のSGU事業構想「実学（サイエンス）により地球社会の持続可能性を高める」との親和性が高い。2021年度からは、SDGsの推進を大学の中期計画に明示した。

また、SDGSに関する研究・教育活動を示す全学共通のロゴを開発した。

https://www.global-sdgs.keio.ac.jp/en/sdgs/

2020年度から国連大学SDG大学連携プラットフォームにも参加。

SDGsの達成度を図るTHE世界大学インパクトランキング（ University Impact Rankings 2021）において、ゴール9（産業と技術革新の基礎をつくろう）で世界51位を獲得した。